

# 令和2年度 ロームシアター京都 指定管理業務 自己評価書

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

## 1 業務概要

ロームシアター京都は、開館5周年を迎えた令和2年度においても、これまで同様、当初は、各施設の特性を生かした舞台芸術公演や式典、集会、MICEといった様々な催しで、多くの方にご利用いただく予定となっていました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの方が集まる催しの開催を自粛したり、海外からの出演者の来日が不可能になったりするなどにより、催しのキャンセルや内容変更が相次ぎました。また、緊急事態宣言に伴う臨時休館により、利用の取り止めをお願いする事態も生じました。このため、利用日数や利用料金収入、また来場者数といった実績は目標を大きく下回る結果となりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大というこれまで経験したことのない状況にあっても、多くの方が同時に空間を共有する場であるロームシアター京都においては、施設や催しの特性に応じた適切な感染拡大防止対策を確実に実施し、文化芸術の創造・発信拠点として当施設が担っている役割を再開していくことで、文化芸術都市・京都のまち全体の発展に引き続き寄与していくことが重要であると考えました。そこで、「ロームシアター京都における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を策定・改訂し、感染症の状況や特徴を踏まえた具体的な利用上の注意点を示す等により、感染拡大防止に努めながら催しが開催できるよう工夫しました。

自主事業では、引き続き令和2年度も「世界市民のための劇場へ」をテーマに創造・交流・育成・生活の4つの事業の要素を柱に「劇場文化」を創出してきました。洋の東西を問わず世界水準の優れた作品をお届けすることはもちろん、劇場の財産となる作品のプロデュースや次代を担う芸術家の育成に国際的な視点で取り組んでまいりました。更に、ロームシアター京都が開かれた場として、人々の交流を活性化させるべく、京都の様々な施設や団体と連携しながら、地域に根をおろしていく事業を展開しました。あわせて、賑わいスペース事業者（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）や公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションとの連携のもと、ホール以外での催しや取組を展開し、劇場が開かれた場として、人々の日々の生活に寄り添う存在となるよう努めてきました。

しかしながら、令和2年度においても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、いくつかの自主事業を中止、延期せざるを得ませんでした。そのような状況ではありましたが、ただ公演を中止にするのではなく、オンライン配信や映像上映会の実施等、新たな手法への挑戦を試みました。

このように、令和2年度は、指定管理業務の計画を作成した時とは全く状況が変わっており、実績等において、大きく下回っているものもありますが、適切な感染防止対策や事業実施の工夫等により、施設の役割を継続して担っていくことができたものと考えています。

なお、令和2年4月から就任予定として発表し、その後就任を1年延期するとした館長人事案件については、令和2年12月に「ロームシアター京都館長問題に係る信頼回復の取組について」を取りまとめ、公表するとともに、同予定者の就任については見送ることとしました。今後も引き続き、館長像の検討や選定プロセスの充実を進めるなど、京都市と連携し、信頼回復の取組を着実に実施するとともに、その状況について情報発信を行い、市民、劇場関係者の皆様とともに、劇場文化の発信に全力を傾注してまいります。

以上を前提として、本評価書では、指定管理業務の実施状況について、自己評価の視点から報告します。

## 2 事業に関すること

### (1) 概要

令和2年度は、30事業87公演3講座を計画し、うち7事業25公演を新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止としましたが、その他については実施できました。

自主事業の総入場者数は41,662人でした。

自主事業（主催事業・共催事業）の詳細は、以下、各項目ごとに、提案書記載の事業を中心に、実施した事業の特色や課題について記載します。

### (2) 文化芸術の創造及び振興に関する業務

#### ①自ら企画・制作する作品の上演

ロームシアター京都が自ら企画・制作する作品の上演を、主に「レパートリーの創造」と「舞台芸術としての伝統芸能」の2シリーズとして計画し準備を進めてきました。また、本年度は、開館5周年を記念した取り組みも実施しました。

「レパートリーの創造」に位置付けている「シーサイドタウン」は、長らく京都を拠点に活動が続けてきた劇作家・演出家の松田正隆氏に新作を委嘱し、出演者のオーディション等を経て、劇場で作品を創り上げての上演を実現しました。

「舞台芸術としての伝統芸能」シリーズとしては、令和元年度に新型コロナウイルス感染症の影響により、公演直前に中止とした「人形浄瑠璃文楽」の公演の上演が実現し、87年ぶりの復活上演作品と新作の2本立てということもあって大きな注目を集めることができました。さらに、開館5周年記念事業として、「雅楽」を取り上げた公演は、雅楽とダンスの融合による華やかで非常に洗練された公演となり、また、パフォーマティブコンサート「火の鳥」は、トランポリン選手やダンサー、オペラ歌手、また最新のレーザーディスプレイ等が京都市交響楽団の演奏とともに舞台上で様々なシーンを展開する、これにまでない新しいオーケストラコンサートとして実現することができ、ロームシアター京都のこれまでの5年間の蓄積を示すとともに、その先の未来を展望することができたと考えています。

(主な事業)

- ・レパートリーの創造  
「シーサイドタウン」
- ・レパートリー作品 木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」
- ・舞台芸術としての伝統芸能 Vol.3 人形浄瑠璃文楽
- ・舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4 雅楽
- ・京都市交響楽団×石橋義正 パフォーマティブコンサート「火の鳥」

#### ②外部の文化芸術団体等と協同し制作する作品の上演

この枠組みでは、京都を拠点に国内外で活躍する劇団・地点の新作を、ロームシアター京都が主導する形で、他都市の2つの公共劇場と共同制作するプロジェクトとして実施しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、誰もが安心して鑑賞できる環境を担保するため、公演のオンライン配信も実施しました。配信では、戯曲を字幕として表すなどにより、生の上演とはまた異なった形での楽しみ方について工夫し、単なる配信に留めることなく実施できたと考えています。感染症の状況が比較的落ち着いた時期となったため、劇場で通常と同様

に鑑賞可能な公演としても実施しましたが、集客は通常時ベースでの予想の半数に留まり、配信を実施していたこともあってか、劇場へ来場いただくのは厳しい時期であったと考えています。

(主な事業)

- ・地点 「君の庭」

### ③芸術性の高い舞台芸術作品の招聘

他都市の2つの公共劇場と海外共同招聘として実施した公演「不確かなロマンス」は、感染症拡大の時期において、海外からの招聘という非常に手探りで準備を進めなければならない状況ではありましたが、3館で協力して準備を進めたこともあり、外務省や現地日本大使館など様々な公的機関と協力関係を得ることができ、出入国の手続きやその後の隔離等にも適切に対応することで、公演をなんとか実現することができ、これまでの招聘ノウハウに加えて、さらに蓄積ができたと考えています。また、3館それぞれの制作ノウハウを共有すると共に、舞台技術のノウハウもシェアしたことで、各館の運営・舞台技術の能力のさらなる向上につながったと考えています。

京都国際舞台芸術祭(KYOTO EXPERIMENT)では、当初計画された時期から日程が変更になりましたが、当財団は同祭の実行委員会の中核団体として、また、劇場は主会場の一つとして、実験的な作品の上演や国内外の交流の場の実現に寄与できたと考えています。

年5回実施している市民寄席は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で日程を変更した回もありましたが、計画した5回を全て実施することができました。ただし、鑑賞者の年齢層が比較的高めなことも影響してか、各回とも入場者数は伸び悩み、感染症の状況が改善した後にこうした傾向が続かないよう取り組んでいく必要があると考えています。

(主な事業)

- ・フランソワ・シュニョー&ニノ・レネ『不確かなロマンス ―もう一人のオーランドー』
- ・KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2020
- ・第350回～第354回 市民寄席

### ④鑑賞者、製作者、舞台技術者等の育成を目指した事業

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、感染症拡大防止対策を踏まえ、事前レクチャーコンサートは実施しなかったほか、本公演においては、一席空けでの配席とし、1日目のみ一般券を発売しました。この時期に、オペラという多くの人が関わる大きな公演を無事実施することができたのは、公演関係者各位の協力のもと、感染症拡大防止対策の確実な実施あったことであつたと考えています。

京都芸術センターと共同で実施している「KIPPU」については、今年度は3団体の公演を実施しました。創作の場・上演の場のそれぞれを支援する本プログラムは、若手アーティストを支援するプログラムとして広く知られるようになってきており、公演したアーティストからも滞在制作や劇場機材の活用等が、普段なかなかできないことに取り組む機会となった旨の意見が寄せられており、ステップアップの機会として成果を上げているものと考えています。

また、2年度目となった「劇場の学校プロジェクト」は、演劇、舞踊、メディア表現の3コースを実施し、受講者からも好評を博しました。内容や方法等について見えてきた課題などを踏まえ、次代を担う若者を育成する事業の柱として充実させていきたいと考えています。

京都薪能レクチャー「能の世界へおこしやす」は、感染症拡大の状況を踏まえ、中止としま

した。また、能楽チャリティ公演は、観客を入れる公演としては中止としましたが、京都在籍能楽師有志が出演・製作する動画「能楽チャリティ公演（動画配信）～祈りよとどけ 京都より～」をYouTubeにて無料配信しました。映像ならではの演出や解説等も加わり、多くの方にお楽しみいただくことができ、こうしたコロナ禍での新たな試みを今後の新たな鑑賞者の開拓等にもつなげていければと考えています。

なお、小澤征爾音楽塾については、本事業のために海外から来日する関係者や塾生も多いことなどもあり、新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、令和元年度につづき、中止としました。

#### （主な事業）

- ・小澤征爾音楽塾（中止）
- ・新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020「魔笛」
- ・ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”
- ・劇場の学校プロジェクト
- ・ロームシアター京都×京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたし
- ・能楽チャリティ公演 ～被災地復興、京都からの祈り～（無観客、YouTube 配信）
- ・京都薪能 レクチャー（中止）

### ⑤その他、劇場文化の形成を促進するプログラム

「プレイ！シアター in Summer」として例年行っている企画は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、「プレイ！シアター at Home 2020」とし、全面的にオンライン配信としました。なお、単なる予定公演の配信ではなく、映像制作の専門家も交えた配信内容の工夫などを行い、オンライン視聴は、アーカイブ再生を含め、2万アクセスを超える結果でした。

「劇場空間での体験の代用品ではなく、子どもたちに「おうち」でリアルな体験を届けていた」（雑誌『地域創造』46号）という評価を受けることができ、劇場として今後のオンライン配信のあり方を考えるうえで重要な事業となりました。

舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的とした「リサーチプログラム」、また、現代社会を捉え直すトピックを基に専門家とアーティストが登壇する「いまを考えるトーク」についても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあったものの、オンライン配信等も組み合わせることで、継続して実施することができました。また、記録等を冊子やインターネットで公開することにより、トークイベント等に来場できなかった方や、将来、関心を持たれた方にも生かしていただけるような工夫を引き続き行っています。

#### （主な事業）

- ・「プレイ！シアター at Home 2020」
- ・ロームシアター京都 リサーチプログラム
- ・「いま」を考えるトークシリーズ vol.11～vol.12, 特別編

### ⑥その他

リニューアルオープン後の様々な取り組みやその背景、実態を記録の上、今後に生かし、将来の検証にも供するため、「ロームシアター京都開館5周年記念誌」を刊行しました。リニューアルオープンまでの経緯、劇場の施設・設備・サービス、5年間の利用状況や運営体制、創造現場としてのロームシアター京都、催し物データ、各種条例等を、A4版で200ページにわたり詳しく記載しています。

### (3) 憩いの場の提供に関する業務

賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下、「CCC」という。）と調整・連携を図り、市民や観光客の皆様の新たな憩いの場となるパークプラザを中心に、ブック&カフェ、レストラン、キオスクといった常設の店舗が高い評価を得て運営されるよう努めました。劇場スタッフと店舗スタッフによる定例のミーティングなどにより、劇場の催し情報はもとより、美術館やみやこめっせ等の周辺施設の催し情報の収集・共有による商品の仕入れやスタッフの体制の細かな調整や、観光客の減少や地域の方の来店割合の増加等を踏まえた商品構成の見直し、また、SNS を活用したライブ配信等も行いました。

ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度は、営業時間の短縮や臨時休業を行わざるを得ず、イベント等の取組についても、例年どおりの内容や規模での実施が困難となりました。国内外からの観光客の激減などもあり、入店者数も大幅に減少し、大変厳しい一年となりました。

賑わいスペース事業 店舗等の概要（通常）

事業内容	店舗名	営業時間
ブック&カフェ (パークプラザ1階)	京都岡崎 蔦屋書店 スターバックスコーヒー	午前8時から午後10時
レストラン (パークプラザ2階)	京都モダンテラス	午前8時から午後11時
キオスク (サウスホール1階 ホワイエ内)	ファミリーマート	午前8時から午後10時
ギャラリー・ライブラリー (パークプラザ3階 共通ロビー内)	BOOK & ART GALLERIA	午前9時から午後7時 (開館時間等に応じて変更)

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、本欄記載の時間から一時的に変更して営業をしています。また、臨時で休業した日があります。

店舗入店者数

区分	令和2年度
入店者数の実績値	1,125,605人

### (4) 市内劇場文化の活性化に資する業務

上記「④鑑賞者、製作者、舞台技術者等の育成を目指した事業」にも記載の KIPPU により、創作や上演の場の提供や制作業務の支援等による若手アーティストの発掘や育成等を行うことで、市内劇場文化の活性化につながる取り組みを進めており、今後もこうした形で継続していくことが重要と考えています。

(5) その他施設の目的を達成するために必要な業務

① 広報

主催事業ラインアップ・リーフレット、催物カレンダーの作成、ホームページや SNS の運用、CCC と連携した取組、また、様々な広報媒体への働きかけ等により、多様な劇場への関心や関わり方、また情報の受け取り方等に応じた効果的な情報提供や話題作りを行うよう努め、ロームシアター京都の事業内容について理解していただくとともに、施設の認知度をさらに高める取り組みを進めました。特に、新型コロナウイルス感染症に関連した情報は、多くの方に確実に伝えることが重要であり、WEB サイト等の活用により工夫しました。

② 助成制度の活用等による事業の充実

今年度も文化庁等の公的支援や民間団体の助成や寄付・協賛等を獲得することで、事業の充実を図ることができました。また、ロームシアター京都と京都コンサートホールの自主事業への寄付を広く求める制度として運用している賛助会員制度（サポーター・パートナー制度）についても、新型コロナウイルス感染症拡大による自主事業の減などの中、新規の会員獲得等は厳しい状況ではありましたが、既に会員である方に継続してご支援いただくための工夫等に引き続き努めました。

助成金等

助成事業名等	助成団体等
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020 「魔笛」	(公財) ローム ミュージック ファンデーション
J-LODlive(コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金)：プレイ！シアター at Home 2020 京都市交響楽団 0 歳からの夏休みコンサート	経済産業省
J-LODlive(コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金)：京都市交響楽団×石橋義正 パフォーマンスコンサート「火の鳥」	経済産業省
J-LODlive(コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金)：シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4 雅楽	経済産業省
J-LODlive(コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金)：舞台芸術としての伝統芸能 Vol.3 人形浄瑠璃 文楽	経済産業省
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（公演）	文化庁
劇場・音楽堂等機能強化推進事業（人材）	文化庁
地域の文化・芸術活動助成事業 連携プログラム	一般財団法人 地域創造

※J-LODlive 補助金については、報告・検査の都合により、確定金額の一部について、会計上の収入年度が令和3年度となっているものがある。

協賛金等

事業名	協賛者名
プレイ！シアター at Home 2020	ローム株式会社
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室	ローム株式会社

2020 モーツァルト：歌劇「魔笛」	
シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4 雅楽～現代舞踊との出会い～	京都信用金庫
シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4 雅楽～現代舞踊との出会い～	公益財団法人稲盛財団
京都市交響楽団×石橋義正 パフォーマティブコンサート「火の鳥」	日東薬品ホールディングス株式会社
シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.3 人形浄瑠璃 文楽	公益財団法人稲盛財団

賛助会員数と寄附金額 (万円)

会員区分	令和2年度	
スペシャルサポーター (法人)	2件	100
サポーター (法人)	20件	210
スペシャルパートナー (個人)	33件	218
パートナー (個人)	52件	104
合計	107件	632

※合計 632 万円について、ロームシアター京都と京都コンサートホールの2館で活用する。

### ③地域活性化等

「(3) 憩いの場の提供に関する業務」にも記載の店舗の運営やイベントの開催等、また、CCCが開設している京都岡崎 蔦屋書店のWEBサイト等による情報発信などにより、岡崎地域の魅力向上に向けた取り組みを進めました。また、京都岡崎魅力づくり推進協議会とも連携し、同協議会が発行する「京都岡崎コンシェルジュ」への催し情報の提供等を行ってきました。

また、自主事業としてローム・スクエアを会場に、地域の団体等とも連携した催し「OKAZAKI PARK STAGE」では、企画内容を拡充し、感染リスクを下げるため事業実施形態を工夫した形で屋外特設ステージなども行い、こうした状況下でも地域の活性化に継続的に取り組めたと考えています。

## 3 施設運営に関すること

### (1) 概要

平成28年1月にリニューアルオープンしたロームシアター京都は、引き続き令和2年度においても、当初は、各施設の特性を生かした舞台芸術公演や式典、集会、MICEといった様々な催しで、多くの方にご利用いただく予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、多くの方が集まる催しの自粛、海外からの出演者の来日が不可能になったことなどにより、催しのキャンセルや内容変更が相次ぎました。また、緊急事態宣言に伴う臨時休館により、利用の取り止めをお願いする事態も生じました。このため、利用日数や利用料金収入、また来場者数といった実績は目標を大きく下回る結果となりました。

こうした状況に直面しながらも、多くの方が同時に空間を共有する場であるロームシアター京都においては、施設や催しの特性に応じた適切な感染拡大防止対策を確実に実施し、文化芸

術の創造・発信拠点として当施設が担っている役割を再開していくことで、文化芸術都市・京都のまち全体の発展に引き続き寄与していくことが重要であるという考えのもと、国や京都府、京都市の指示、公益社団法人全国公立文化施設協会からの情報提供等を踏まえ、「ロームシアター京都における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を策定・改訂し、感染症の状況や特徴を踏まえた具体的な利用上の注意点を示す等により、感染拡大防止に努めながら催しが開催できるよう工夫しました。また、検温機器の導入等に加え、場内サービス、各種設備の運転等についても、感染症の状況を踏まえた運用の見直し等を行い、安全、安心で快適な劇場空間の提供を継続できたものと考えています。

また、令和2年6月から8月にかけて、京都市文化芸術活動緊急奨励金を活用した活動を対象として、コロナ禍において活動場所や資金等で困っているアーティスト等に、一部施設を無料で利用可能とする活動支援を実施しました。

なお、取り組みの一部については、全国の公立文化施設に対して支援事業を実施している一般財団法人地域創造が発行する雑誌『地域創造』（第46号、2021年1月発行）にて、「新たな時代を切り開こうと奮闘する、ホール・劇場での取り組み」事例として紹介されました。

#### 日数利用率

区 分		令和2年度
メインホール	利用率(日数)の目標値	81 %
	利用率(日数)の実績値	49 %
サウスホール	利用率(日数)の目標値	78 %
	利用率(日数)の実績値	46 %
ノースホール	利用率(日数)の目標値	76 %
	利用率(日数)の実績値	59 %

#### 入場者数

区 分	令和2年度(人)
入場者数の目標値	520,000
入場者数の実績値	76,076

#### 利用料金収入額

区 分	令和2年度(千円)
利用料金収入の目標値	351,389
利用料金収入の実績値	136,254

ジャンルごとの月別入場者数 (人)

月	音楽	舞踊	演劇	学会・会議	講演	その他	計
4月	0	0	0	0	0	200	200
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	26	11	35	0	0	0	72
7月	401	177	182	0	0	276	1,036
8月	592	257	70	0	0	302	1,221
9月	2,246	11	641	0	1,470	1,441	5,809
10月	1,325	44	0	400	1,954	2,083	5,806
11月	2,703	255	6,236	0	310	305	9,809
12月	8,360	1,044	1,618	400	300	1,256	12,978
1月	1,887	1,130	404	2,003	40	362	5,826
2月	1,153	1,012	1,112	0	444	3,191	6,912
3月	3,425	606	13,360	30	0	1,081	18,502
計	22,118	4,547	23,658	2,833	4,518	10,497	68,171

※上記は、メインホール・サウスホール・ノースホールの利用に係る入場者数である。  
 ※入場者数について、自主事業は財団調べ、貸館事業は利用者（主催者）調べ。

## (2) 施設等の利用許可に関する業務

京都市京都会館条例及び同条例施行規則に基づき、施設の利用許可や利用料金の徴収などを行いました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等のため、施設利用を中止した利用者に対する利用料金の還付等についても行っています。

令和2年度 ホール利用受付件数

舞台芸術公演	その他催し	合計
275件	65件	340件

## (3) 舞台運営に関する業務

より良い催しの実現のため、舞台技術スタッフが、貸館担当スタッフとともに、施設利用者へのサポートや安全管理等を実施しました。日常的な機材メンテナンスや保守業者による点検作業等を計画的に実施したほか、舞台機構、照明、音響などの専門スタッフが、適切な管理や支援、トラブル対応等により、催しが安全な状況で確実に開催される状況を適切に維持しました。

## (4) 場内サービスに関する業務

ホールの催しにおいて、お客様と直接接し、入場管理、安全管理等を行うレセプション業務については、その人数や配置等について、施設利用者（主催者）とも細かい調整の上、実施しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、レセプションスタッフが身に着けるものや場内の案内表示等の物理的対策とともに、ご案内方法等の工夫も行い、安全で快適に過ごしていただけるよう努めました。

チケット販売のほか、来場者へ施設や公演の案内等を行っている総合案内においては、催しに応じた案内方法の工夫等を行っています。

なお、チケットについては、インターネットを活用した販売も行っており、インターネット経由で予約し、コンビニエンスストアでの発券を選択される方が多い一方、電話による予約やお問い合わせをされる方も多く、丁寧な対応を心がけました。新型コロナウイルス感染症による公演中止等に伴うチケット料金の返金等についても、貸館利用者からの受託販売分も含め、丁寧に対応してきました。

なお、ホール内のビューフェカウンターについては、営業を中止しました。

#### (5) 施設設備及び備品の管理

当財団がこれまでの運営で把握してきた建物の特徴や設備の具体的な特性等に基づき、利用状況や季節変動等を踏まえた日常の設備運用や保守点検、備品管理等を工夫し、安全で効率的な施設運営に努めました。特に、電気設備や舞台設備、空調、楽器（ピアノ）といった、施設の運用に重大な影響を与える設備等については、予防保全の視点から、予め定期点検の日程を確保し実施しています。修繕等が必要となった場合には、速やかに対応するとともに、消耗品・備品等の管理も確実にを行っています。その他の各種管理業務や各種有資格者の配置等についても計画通りに実施し、安心して利用できる施設環境を適切に維持しました。

#### (6) その他管理運営に関する事項

##### ・命名権契約を踏まえた施設運営

適切な名称の使用や無償使用权への対応、広報スペースの運用等の命名権契約に定められている点を踏まえた運営に努めました。なお、広報スペースの一部であるミュージックサロンについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、展示の実施を見送りましたが、ミュージックサロンを会場に無観客無料のトーク&コンサートをアーカイブ映像配信により1回開催しました。

### 4 事業執行体制等に関すること

#### (1) 人材の確保、配置、研修等

##### ①職員数（提案書記載の人数を確保）

提案書記載の計画をもとに、下記の体制で運営にあたりました。

区 分	計画（人）	令和2年度（人）
副館長	(1)	1
総務部長	(1)	1
管理担当	(14)	14
事業担当	(9)	8
舞台担当	(8)	8
計	(33)	32

## ②研修の実施

	職員研修の実施実績
令和2年度	・ハラスメント研修 ・手話及び聴覚障害の理解促進に向けた業種別合同研修会参加 ・シアターアクセシビリティ研修

## (2) 再委託業務

特に専門性の高い分野の業務については、委託により実施しました。また、一部の業務については、利用者サービス向上の観点から、業務の安定的な実施と質の向上のため、契約期間を2か年とし、プロポーザル型の業者選定を行っています。それぞれの委託先とは日常的な情報共有や定期的な協議などにより、業務を円滑に実施できるよう努めています。主な委託業務は下記のとおりです。

委託内容	受託業者	業務内容
舞台管理運営業務 (2箇年契約)	京滋舞台芸術事業協同 組合	ホールの舞台、照明、音響の進行及び 運営管理(舞台設営・撤去、舞台設備管理等)
会場案内・ 場内整理業務 (2箇年契約)	(株)コングレ	会場案内・場内整理等
施設・設備の 保守管理業務 (2箇年契約)	近建ビル管理(株)	施設・設備の保守・管理(電気設備・ 空調設備・給排水衛生設備・消防設備・その他建物 に付属する機器等)
清掃業務 (単年契約)	(株)タクミサービス	施設・敷地内の日常清掃(ホール内、 各部屋、トイレ、ゴミ収集、屋外等)・定期清掃 (トイレ、床、ガラス窓)
警備業務 (単年契約)	国土警備保障(株)	施設屋内外の人的警備

## (3) その他

令和2年4月から就任予定として発表し、その後就任を1年延期するとした館長人事案件については、令和2年12月に「ロームシアター京都館長問題に係る信頼回復の取組について」を取りまとめ、公表するとともに、同予定者の就任については見送ることとしました。

## 5 収支に関すること

本年度の支出規模は、約8億8400万円でした。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用減に伴う利用料金収入の大幅な減などがあり、施設の稼働減に伴う支出減等もありましたが、収支差額は約1,000万円の赤字でした。

	令和2年度（千円）	
	予算	決算
収入の部		
指定管理料	376,342	395,232
利用料金収入	351,388	136,254
事業収入	190,375	157,454
その他収入	93,380	185,883
収入計	1,010,486	874,825
支出の部		
事業費	367,687	316,559
人件費	275,707	247,632
物件費	367,092	320,574
光熱水費	62,500	38,628
その他支出	304,592	281,946
支出計	1,010,486	884,767
収支差額	0	△9,942

## 6 まとめ

令和2年度は、ロームシアター京都としてのリニューアルオープンから5周年を迎え、これまで培った経験やネットワークを総動員し、記念事業等も多数展開した年度ではありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大への対応が施設運営に大きな影響を与えた一年でした。

自主事業においては、各事業の目的に沿った多様な事業を数多く実施できましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、いくつかの事業を中止・延期せざるを得ませんでした。しかし、単なる中止に留めず、オンライン配信や映像上映会の実施等、新たな手法を試みる挑戦の一年でもあり、今後の新たな事業展開にも結び付けられるノウハウの習得にもつながったと考えています。

施設利用においては、催しのキャンセルや内容変更が相次ぎ、また、緊急事態宣言に伴う臨時休館により、利用の取り止めをお願いする事態も多数生じました。そうした状況下においても、利用が再開された際に対応ができるような人的体制や設備状況を担保するよう努めてきました。先行きを見通すのが大変困難な状況ではありますが、今後に向け、ロームシアター京都を引き続きご利用いただけるよう、利用者のニーズの把握、利用相談への丁寧な対応等を行っていき、必要があると考えています。

また、賑わいスペース事業の店舗営業についても大変厳しい状況でしたが、同事業者の工夫等により、店舗営業を継続することができています。岡崎地域の関係施設等とも連携し、新型コロナウイルス感染症の対策を行い、改めて地域の価値向上につなげていけるような長期的な視点での取組も工夫していき、必要があると考えています。

今後も、業務の評価についての視点を常に持ちつつ、社会状況の変化にも確実に対応し、各事業や各業務を着実に進めていくことで、指定管理業務における目標の達成に向けた施設運営を行ってまいります。